

プライベート5G

西Orange、サーキットに5G SA仮想プライベート網を導入

モーターランドアラゴンのサーキット施設に導入した5G SAバーチャルプライベート網の特徴は以下の通り。

- | | |
|--------|--|
| 実現方法 | <ul style="list-style-type: none"> Ericssonと協力し、施設内に5Gコアと無線アクセス機器を設置 |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> アップリンク速度の向上、超低遅延の実現 NWスライシングを提供可能 |
| ユースケース | <ul style="list-style-type: none"> 自律走行車、コネクティッドカーのセンサー化や遠隔監視等のIoT活用の可能性を拡大 コンセプト/技術/サービスの実証、検証を仮想環境で第三者の介入から保護された状態で実行可能 ニーズやトラフィックの増加に対応した高度なNWカスタマイズ サーキットで競技を行うバイクや車のカメラからの映像伝送 サーキットの観客への高速通信提供 通信に関する問題の可能性を早期発見し、即座に修復、解決策を検証 |

5G SAによる没入型体験

西Orange、テニストーナメントで5G SAを活用し審判目線の360度没入型体験を観客に提供

Orangeは、プロテニストーナメント ムチュア・マドリド・オープンで5G SAを恒久的に導入し、顧客に没入型体験を提供すると発表した。

審判が座る審判台に360度カメラ、コートの両側に2台の180度カメラが配置され、OrangeブースのVRグラスに映像が伝送される。Orangeの没入型エンターテインメントと360イベントプラットフォーム「[Immersive Now](#)」アプリを使うと、**メタバース空間**

での観戦も可能となる。

Orangeは、5G SAの導入により、建物内の5Gカバレッジを向上させ、ネットワークの応答時間を短縮し、より多くのデバイスを同時に接続し、バッテリー消費を抑え、通信をより安全にすることができるとしている。



衛星の活用

GSA、5G NTNと衛星通信のステータスをレポート。

衛星事業者とモバイル事業者による提携が拡大

グローバルモバイルサプライヤー協会（GSA）は、5G NTN（非地上系NW）が存在感を増す中、衛星事業者と通信事業者による提携や試験に関する公開情報をまとめたレポートを初公開した。特別な端末を使うことなく、LEO（低軌道衛星）を利用してモバイル通信エリアを拡大する**衛星から携帯電話へのダイレクト接続**の4月末時点の状況は以下の通り。

	国・地域数	衛星事業者とモバイル事業者の提携数
計画中	10 (サウジアラビア、ニュージーランド、パプアニューギニア等)	16 (Space X-One NZ、Omnispace-stc等)
そのうち試験中	3 (米国、日本、ガーナ)	3 (AST SpaceMobileと、米AT&T、Vodafoneガーナ、楽天モバイル)

GSAは、衛星から携帯電話へのダイレクト接続の取り組み数が今後更に増加するとの見通しを示した上で、同サービスが地上NWのサービスを補完するものであるため、収益化が事業者にとっての課題と指摘している。

5G SA・6G

英国政府、無線インフラ戦略を発表。5G SA全国普及、6Gの開発に1億ポンドを拠出

英国DSIT（科学・イノベーション・技術省）は、新たな政策枠組み「英国無線インフラ戦略」を公表した。戦略で示された主な方針

- 2030年までに5G SAを全ての人口密集地に拡大し、全国的に普及させる。
- ネット中立性ルールが、目的に適った、インフラの革新と投資を行う通信事業者を支援するものとなることを保証する。NWスライシングがネット中立性の枠組みの下で許可されるか不透明な部分があり、英通信規制当局Ofcomが2023年秋の発行を目指して進めているネット中立性ガイドラインの更新に向けた取り組みを歓迎する。
- 英国全土に5Gイノベーションファンドを設立するために新たに4000万ポンドを提供する。これにより、公共部門と産業界による5G活用を促進し、新しい病院が5Gまたは同等の通信技術により、最先端のヘルスケア技術を活用可能とする。
- 6Gの開発に1億ポンドを投資し、英国が科学大国としての役割を果たせるようにする。グローバルな6Gビジョンが英国の通信事業者の要件と政策目標を確実にサポートするようにする。

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

北米6G推進団体Next G Alliance、産業界によるニーズを分析した6Gロードマップを発行

NGAは、業界の専門家への取材等を通じてまとめたニーズを6Gの研究開発、標準化の基礎とする。また、産業界のロードマップとの同期や潜在的需要の早期試験、継続的なニーズ議論等が必要と結論付けた。

	実現するアプリケーション	主要な技術ニーズ
自動車	車両データのメンテナンス、自律走行・駐車、 状況認識と3D位置測位 、コンピューティング・通信による豊かなインフォテイメント体験	低遅延・高信頼の通信、分散コンピューティング、JCAS*、 非地上系NW ・サイドリンク通信のE2Eでの信頼性確保 *Joint communication and sensing
産業向けIoT	センサー・無人搬送車・映像・XRの統合、 AIの大規模活用・統合 、センサーとウェアラブル間データ共有、RedCap (reduced capability) 端末	分散クラウドと仮想化、柔軟なコンピューティングリソース、物理センサーによるデジタルツインの更新、JCAS*、高信頼なNWとシステム
公共安全	新たなXR・ヘッドセット・ウェアラブル端末、状況認識救助ドローン、コネクティッド救急車・パトカー	エリアカバー技術、ウルトラ3D位置測位、AR/XRとビデオフィード、 AI/機械学習ベースの状況認識 、高信頼・安全な通信
スマートシティ	AIによるセキュアなデータ管理、デジタル世界の体験と多感覚通信、電力効率と持続可能性、JCAS*	機械学習を活用した分析・予測のためのセンシング技術、AIを活用したリソース配分決定、プライバシーとセキュリティを保障するレジリエントなNW、 IoTデバイスの大規模な配備
教育・ゲーム・エンタメ	多感覚体験、デジタルツイン、リアルタイム同期、物理世界のセンシング	高性能ホログラム端末、認知・認識システム、アプリケーションの識別、超低遅延通信
農業	協調ロボット、カバレッジの更なる拡張、リモートセンシング、超精密ポジショニング	オンデマンドの接続性、 低電力センサーによるデータ収集 、ピアツーピアの通信、超低遅延通信
鉱業	運用自動化、没入型デジタル世界の体験、デジタルツインレプリカ、3Dイメージング	高信頼通信、JCAS*、AI統合、分散センシングと通信、データ駆動型分散インテリジェンス、 電力効率と持続可能性技術
eヘルス	デジタル世界の体験と多感覚通信、分散センシングと通信、コネクティッドロボットと自律システム、パーソナライズされたユーザ機器、VR健康体験	施設と遠隔地の接続性（ 公衆網とプライベート網の相互運用性向上 ）、3Dの端末・システム・イメージング、デジタル世界の体験を支える認知システム、患者を取り巻くマイクロNW